

## 美保関への旅 ——松江からの小旅行——

松江から美保関までの距離は約 30 km、現代では自動車ですら約 1 時間程度しかかからないため、美保関に行くことが「旅行」と思う人は少ないでしょう。

江戸時代の移動は、主に徒歩や帆船でした。半日かけて美保関へ行き宿泊して帰る、まさに旅行でした。近代化が進むにつれ、帆船は汽船に替わります。明治時代中期には、松江から美保関まで汽船に乗って 3 時間で行けるようになります。昭和 30 年頃までは日帰りのできる格好の小旅行先となっていたのです。

ここで紹介する写真は、松江市に住むアマチュアカメラマンが昭和 10 年頃に美保関へ旅行した時に撮影したものと、合同汽船が昭和 25 年頃に美保関の観光PR用のために撮影したものです。

お酒が入り楽しい気分で撮った写真と少し昔の懐かしい風景写真、美保関が旅行先として賑わっていたことを示すものです。

### 【昭和 10 年頃】



①五本松公園から見た美保湾



②美保湾風景



③龍雲丸船上での宴会



④美保関からの帰途

【昭和 25 年頃】



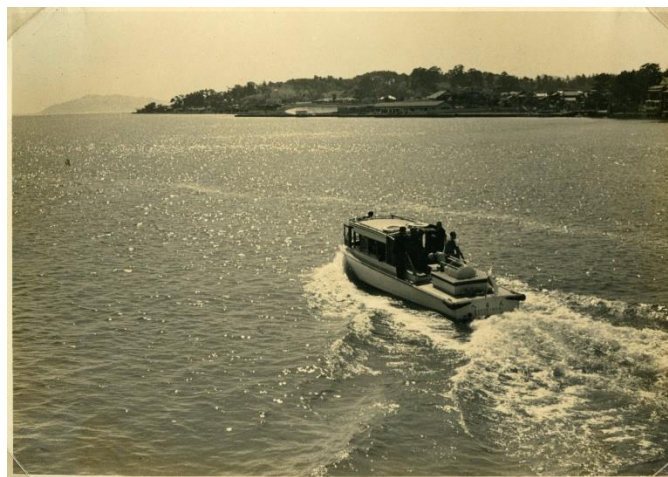
⑤美保湾風景



⑥美保神社 鳥居



⑦旅館から見た美保湾



⑧松江と美保関を結んだへるん号

なかうみ しんじこ

### 中海・宍道湖の内海運輸を担った合同汽船

松江合同汽船株式会社（合同汽船）はそれまで乱立していた汽船会社が合併して明治 40 年(1907)に設立し、内海運輸を担った。昭和 40 年代に境水道<sup>さかいすいどう</sup>大橋や大根島への堤防道路などが開通し道路交通網が充実したため、昭和 55 年(1980)にその役割を終えた。

合同汽船は松江市八軒屋町<sup>はっけんやまち</sup>にあった船着き場から大根島<sup>よなご</sup>、米子、美保関、平田など中海・宍道湖周辺を繋ぎ、昭和中期まで主要交通の一つであった。切符売り場で乗船券を求め、鋏を入れて船に乗り込む。美保関への旅も切符売り場から始まる。



⑩切符販売所看板



⑨連絡船 龍雲丸

美保関と境港を結んだ合同汽船の連絡船。



⑪改札鋏と乗船券